

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら流山教室		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2025年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数) 31名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 1日		～ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	教室環境 (人数に対して広めの教室/部屋数も多い)	広すぎるため気持ちが落ち着かない児童が出ないように、活動によって机の配置や部屋の使用など使い分けている。 気持ちが乱れた児童用に、クールダウンのための部屋を1部屋準備し、落ち着いて休める環境設定をしている。	クールダウンの部屋までの動線に少し課題があり、毎日使用はできるが、毎時間ではないことが課題。 動線を早急に精査し、指導員の配置等によって毎日毎時間使用できる環境を整備する。
2	利用者からの要望・相談を受けやすい体制	LINEや電話、リトム(連絡帳)を多用し、いつでも連絡の取りやすい環境を整えている。 理学療法士による個別相談の機会も月に5回程度は設けており、ご希望に応じて面談を行っている。	出勤職員によっては、保護者からの申し出に対して翌日か翌々日対応になることがある。職員育成により、どのような相談事にも即対応できるように整えていきたい。 配置人数の関係から、個別相談は平日の午前中に設定することが多い。集まりやすい土日にも数多く設定できるよう、職員配置していく。
3	業務改善に対する対応	ヒヤリ・ハット事項はもちろん、その他教室内での出来事を終礼や情報伝達ツールで、職員に確実に共有している。 変更が必要な職員の動きやマニュアルは流動的に変更し、より良い療育体制が迅速に整えられるように、常に職員が意識している。	業務改善は迅速に行うが、改善後の評価について全職員に聞き取り評価を行い、よりよい環境設定を行う。また、情報伝達ツールの新規取り入れや更新によって、よりわかりやすく職員一丸となって業務改善に当たれるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	緊急時の対応(避難訓練)についての保護者理解	活動プログラムでは2か月に一度、複数回避難訓練の機会を設けて、職員ならびに児童が緊急時に対応できるよう準備を行っている。 保護者様からのご意見では、行っているか分からない意見もいくつかいただき、周知ができていないと感じる。	活動プログラムとして行うとともに、開催時には事前に連絡も行っているが、ブログ等SNSも活用し、避難訓練の様子も積極的に紹介できるようにしたい。 また、大規模災害が起こった際に備えて、保護者様参加型の避難訓練も今後開催できればと考えている。引き渡し訓練も含めた避難訓練を検討している。
2	日々の活動について保護者への報告内容	送迎児童が多く、送迎時間の兼ね合いから、保護者への本日の活動についての送りが少なくなることがある。 不明な点などはLINE等で問い合わせいただくように伝えているが、多く話がないことに対して、保護者から意見があった。	可能な限り乗車人数を少なくし、一人一人の送迎時にかける時間を調整するとともに、分かりやすいリトム(連絡帳)の記載を行い、保護者の疑問点が少なくなるように対応する。また面談や活動見学の機会を持つことで、児童の活動の様子がより伝わるように留意していく。
3	食物アレルギー児童に対する対応	現時点で食物アレルギー(医療的ケアの必要)児童がおらず、医師の指示書が必要な時の対応について、行っているが定期的な研修が少ない。	今後、いつアレルギー児童が入所しても対応できるようにエビペンを使用した研修機会を増やし、全職員が安心感をもって療育に入れるようにする。